

3章 まとめに代えて

本調査研究事業では、令和3年度に実施した煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉の各分野について、各分野における経験・未経験者の有無、活動の度合いや興味関心の有無についての把握を目的とした、2万人を対象としたウェブアンケート調査を実施した。

また、令和3年度に実施した文献調査に関して、歴史的変遷及び各分野における無形の文化的所産について追加の文献調査を実施し調査内容の補強を行った。

令和3・4年にかけて、6分野それぞれの、歴史的変遷及び無形の文化的所産等の概要の把握及び、ウェブアンケート調査による経験・体験の有無や活動状況、興味関心や魅力等の把握を行ったが、各分野の施策の検討を進めていくためには、それぞれの分野を担っている団体や流派の活動内容や現状、無形の文化的所産の継承状況や継承していく上での課題点等の把握を行った上で、令和3・4年の調査結果を踏まえた分野の現状と課題の分析と施策の方向性について検討を行う必要がある。

参考資料 各分野の用具・原材料等について

煎茶道の用具・用品、消耗品について

煎茶道の茶席で用いられる主な用具・用品、消耗品は以下のとおりである。

分類	名称	別称	概要
道具	棚		道具類の飾り付けに用いられるものとして、急須、茶心壺、茶合、水注などが並べられる。
	器局		書斎で日々用いる煎茶器一揃いを収めておく箱。
	提籃		野外で煎茶席を設ける場合などに煎茶器を入れて携える。
	茶具 じよく 褥	茶具敷、ほか	煎茶席の道具飾りの下に敷く、絹・木綿・麻・毛織物などの布でできた敷物。
	炉屏	結界、座屏	屏風のような席飾り。
	涼炉	提炉、ほか	コンロのこと。炭を入れて火をおこす道具。煎茶独特のもので、多くは素焼き製（本体は磁器製のものもあり）。涼炉を置くものとして炉台がある。
	ポーフラ	湯沸かし、湯瓶、湯罐、ほか	涼炉にかけて湯を沸かすためのもの。本来は素焼き製。横手のものと上手のものがあるが、横手の急須に似た形のものが多い。
	水注	水灌、水指、水差、水つぎ、ほか	煎茶のお点前の際、茶碗を洗ったりポーフラに湯を補ったりする水を入れておくもの。陶磁器が多い。
	炭籠	たんどう 炭斗、 うぶ 烏府、ほか	涼炉で使われる炭を入れておくもので、籐や竹で編まれているものがほとんどで、手の付いたもの、付かないものがある。炭籠の上には火箸（火筋）や炉扇・羽箒など炭を扱う際の道具が置かれる。
	火箸	かきよう 火莢、 かちよ 火筋	涼炉に火たねを入れたり、炭籠の炭を補うのに用いる。長さは 20 cm 前後が一般的。
	炉扇		涼炉の火をおこすための団扇。竹や籐で編んだものが多い。薄い板や紙でつくられたものもある。
	羽箒		炭手前のとき、涼炉の塵や灰を掃き清めるのに使用する。野雁の羽が一般的であるが、鶴の羽なども使われることがある。

	急須	茶銚、 きびしょう 急尾焼、ほか	茶葉を入れ、お湯を注いでお茶の味を出す、煎茶に欠かせない重要な煎茶独自の道具。
	茶碗及び茶托	茶盞及び托子、ほか	抹茶茶碗と違い小さく、盃かぐい飲み程度の大きさのことが多い。磁器製のものが好まれる。茶托は茶碗をのせるもので、錫製、銀製などが主となり、様々な形のもの、図や透かし彫りの施してあるものなどがある。
	茶心壺	茶壺及び茶入	茶葉を入れておく容器のこと。
	茶合（さごう、ちやごう）	せんぱい 仙媒及び茶量、茶則、ほか	茶心壺から急須に茶葉を入れる際に分量を計るもの。木製、錫、象牙製などあるが、節の付いた竹を半裁にしたものが好まれている。
	盆		点前に使われる点前盆、茶心壺・茶合・袱紗をのせる三器盆、その他様々な大きさ、形のものがある。木や竹、金属、塗り物などの材質でできている。
	袱紗	帛紗	茶心壺・茶合を清める（ぬぐう）ために使うほか、飾りとしても使われる。材質は、インド更紗やジャワ更紗などの更紗が最高とされるが、絹や木綿などもあり、無地や柄物など様々である。
	箸瓶	箸立	茶箸を立てるもの。
	茶箸	茶筴及び茶筴、ほか	急須に残った茶かすを取り除き、滓盃に入れるもの。
	茶巾入れ	茶巾筒、巾盒	茶碗を拭く茶巾及び盆巾を入れるもの。
消耗品	建水	のうお 納汚、こぼし、ほか	急須や茶碗を洗った水や、不要の湯を流し捨てる器。金属製、木竹製（曲物）、陶磁製があり、主として丸形である。
	滓盃	ちやがすいれ 茶滓入	使い終わった葉茶を取り出して入れる蓋つきの容器。
	茶葉		煎茶道で用いられるお茶の葉は不発酵茶である緑茶、中でも煎茶が主として用いられるほか、玉露や雁がね茶なども用いられる。
	花		文人生、文人華とも呼ばれる。投げ入れを基本とする。花材の取り合わせに意味合いを持たせ、題名をつけて展観される。
	盛物		煎茶席に特異な「床飾り」。珍しい果物や野菜を飾る「盛物」は、花と同じく、謎語雅題の取り合わせをする。

	炭		炭手前では、炭を火が着きやすいように組む。 また、玉露・煎茶など、茶葉に合わせた湯加減になるように炭を組む。
	菓子		煎茶席の菓子は当日の趣向を最もよく表すことのできるものの一つとされる。
その他	文房具		筆硯紙墨のほか、印材、筆架、水滴など。
	盆栽		中国の文雅の趣を伝える盆栽は、同じく中国文人趣味の影響のもとに煎茶を楽しむ風雅な席において珍重され、煎茶道においても、茶席を清雅な風韻でしつらえるための一つとして、書画や文房四宝などと共に飾られるようになった。

※道具の呼称は流派によって異なるため、振り仮名は一部にとどめた。

〈主要参考文献〉

- ・小川後楽『煎茶器の基礎知識』光村推古書院、昭和 61 年
- ・全日本煎茶道連盟監修『煎茶 道具としつらいの知識』婦人画報社、平成 4 年
- ・主婦の友社編『煎茶便利帳』主婦の友社、平成 12 年
- ・日本煎茶工芸協会編『煎茶の工芸 その人と技』日本煎茶工芸協会、平成 29 年

香道の用具・原材料について

香道で用いられる主な用具・原材料は以下のとおりである。流派によって呼び名や用途が異なるものがあり、ここでは主なものを挙げた。

名称	概要
聞香炉	香を聞くための基本となる道具。飾りのないすっきりとした筒型で、脚は三つ、手の中にすっぽりと収まることが基本的な条件とされるが、流派によって様々な大きさがある。青磁や染付が多い。
香炭団	直径2cm弱の小さな筒形の炭団で、香木を加熱し、発薫させるために香炉の灰に埋めて用いる。
香炉灰	主に菱の草の実を原料とする菱灰、藤の木を原料とする藤灰などが使われる。
銀葉	雲母を素材とする。板状で、直に香木を炷くことのないよう、香木を載せる敷物として使用する。
打敷、地敷・地敷紙	道具を並べるときに下に敷くもの。御家流では、地敷を打敷の上に敷いて用いたり、そのものを打敷と呼んだりする。志野流では地敷紙と称する。
火道具	流派によって形状や材質、呼び名が違うものもある。聞香炉の灰を扱うのに使う「火箸」（主に志野流）「火筋」（主に御家流）、香炉で灰を押さえたりなしたりする「灰押」、銀葉を挟む「銀葉挟」、灰を落として香炉を清める「羽箒」、香木を挟む「香筋」（主に御家流）「木香箸」（主に志野流）、香木をすくって銀葉に載せる「香匙」、本香包を刺しておく「鶯」（香串ともいう）、の7つの道具がある。「香筋建・香匙建」は火道具を立てておくための筒で、流派によって納め方に決まりがある。*香匙の室町時代の呼び名は「きょうじ」
みだれはこ 乱箱	香道具を運ぶために香道具一式を入れる箱のこと。流派により入れてある香道具の位置が異なる。漆黒塗、蒔絵などでつくられている。
じゅうこうこう 重香合	御家流で香木、銀葉を入れるのに使用する四角又は筒型の三段及び四段の箱。掌サイズで、蒔絵のものも多い。最下段内側に金属を張ってあるものが多く、使用後の熱い銀葉や、香を炷いたあとの炷空・末枯を入れる。志野流では、炷空は銀製の炷空入れに入れる。
手記録紙、 手記録盆、 記紙差	手記録紙は組香の際に答えを記す回答用紙を指す。手記録紙を載せるのが手記録盆である。答えの示し方としては他に、香札を用いる場合などもある。志野流では回答用紙「記紙」を、料紙で金地彩色の記紙差で廻す。

香木について

香木は良い香りのする木のことであり、ある種の樹の一部分をさす。沈水香と総称される伽羅・沈香は、樹内の繊維に樹脂が溜まった部分、白檀は樹の芯に精油が溜まった部分、桂皮は皮の部分、というように称する。主にベトナム、タイ、インドネシアなどの東南アジアで産出される。沈香樹は将来絶滅する可能性の高い植物であることから、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」によって原産国からの輸入等に関して規制が行われている（商業目的の国際取引は可能）。

現在の香木の輸入について、特に沈香については平成 11 年（1999）に HS コードの変更に伴い、沈香単独の輸入量については把握が困難となった。下記表は平成 10 年までの沈香の輸入量をまとめたものである。

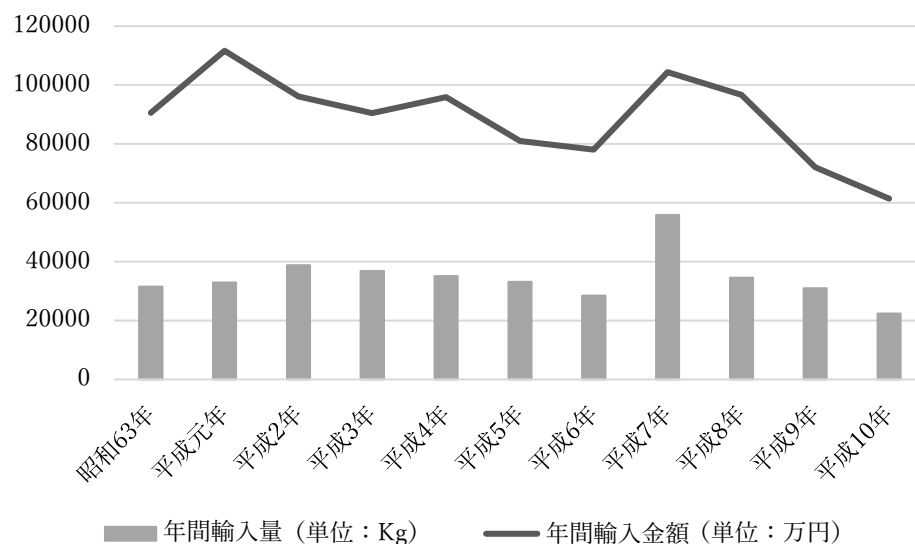


図 1 沈香の輸入量（昭和 63 年～平成 10 年）

出典：昭和 63 年から平成 10 年までの貿易統計を「政府の統計窓口 e-Stat」
(URL: <https://www.e-stat.go.jp/>) を参照し受託事業者が作成した

今後、香木の採取量の減少が懸念されている。香舗や流派の中には、ベトナムで植林を行い、人工栽培に取り組んでいるところもある。

〈主要参考文献〉

- ・『淡交ムック 香道入門』淡交社、平成 5 年
- ・神保博行『香道の歴史事典』柏書房、平成 15 年
- ・野村朋弘編『伝統を読みなおす 3 風月、庭園、香りとはなにか』京都造形芸術大学東北芸術工科大学出版局芸術学舎、平成 26 年
- ・荻須昭大『香の本 増補版』雄山閣、平成 29 年

- ・ 山田眞裕『香木三昧 大自然の叡智にあそぶ』淡交社、令和元年
- ・ 香道文化研究会編『図解 香道の作法と組香』第五版 雄山閣、令和2年（初版は蜂谷宗由監修・長ゆき編で、昭和53年に雄山閣より刊行）
- ・ 山田英夫『香木のきはん図鑑 種類と特徴がひと目でわかる』世界文化社、令和3年
- ・ 三條西堯水監修『よくわかる香道 歴史から作法まで 香りの世界を深める』メイツユニバーサルコンテンツ、令和4年

和装の用具について

和装の主な用具は、以下のとおりである。

名称	概要
長着、帯	長着（着物）や帯の概要は1節のとおりである。なお、上下が分かれている「二部式」の長着や、帯に帯結びの形状があらかじめ作られ、簡便に装着できる「作り帯」と呼ばれるものもある。
下着	汚れ防止や保温のために着る上半身用の肌着である肌襦袢、長襦袢の汚れ防止や裾捌きをよくするために腰に巻き付けて着用する裾除け、肌着と着物の間に着る長襦袢がある。また、「スリップ」と呼ばれ、肌襦袢と裾除けが一体となったものがあるほか、胸のふくらみを目立たなくさせる和装ブラジャーもある。
小物	女性の場合、長襦袢や着物の上に締めて襟元を整える伊達締め、おはしよりを作ったり着崩れを防止したりするために結ぶ腰紐、お太鼓の形を整える帯枕、胴回りの皺を抑えて帯の前姿を整える帯板、帯枕を隠し帯結びの形を整える帯揚げ、帯結びが崩れないように帯の上から締める帯締め、汚れ防止のために長襦袢に付けファッション性も高める半衿、半衿と着物の衿の間に挟む伊達衿等がある。 外出時には和装バッグ、袋物を持つ。装飾品として、髪には 簪 ^{かんざし} 、髪飾り等がある。帯締には帯留を用いることもある。
上着	羽織やコート（道行）を着用する。雨天時のための雨コートもある。
足袋	和装の際に足に直接履くもので、素材は正絹や綿、化繊等がある。
履物	草履、下駄を着用する。雨天時用として、歯が高めで爪先をカバーできる雨下駄もある。
着付け補助具	着付けを簡便にするための補助具として、コーリンベルト、ソフトパッド、仮止めには着物クリップ等も用いられる。

〈主要参考文献〉

- ・橋本澄子編『図説 着物の歴史』河出書房新社、平成 17 年
- ・全日本きもの振興会監修『着物の教科書』新星出版社、平成 30 年

盆栽の用具・原材料について

盆栽で用いられる主な用具・原材料は以下のとおりである。

名称	概要
盆栽苗	盆栽の主体となる植物は、苗木の生産業者、苗木を盆栽として仕立てる盆栽園によって生産される。かつては“山採り”の専門業者もいたが、現在は地権者の問題、希少植物の天然記念物指定等により非常に難しくなっており、数は減っている。 出荷数量、出荷額については、農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年）」では、盆栽苗生産者から盆栽生産者への出荷量は約 2 万 5,000 本で約 3,000 万円、盆栽生産者からの国内出荷量は約 11 万 1,000 鉢で約 8 億円、輸出量は約 4 万 4,000 鉢で約 4 億円となっている¹。
盆器	植物を植える盆器は盆栽に欠かせない道具であり、植物と器のバランスは鑑賞上の重要なポイントともなる。歴史的に「鉢」と呼ばれてきたが、昭和 50 年代から「盆器」という呼び方が広がり、定着した。 古くは中国から輸入された青磁や、瓦器と呼ばれる素焼きの鉢等が用いられた。江戸時代には輸入品と並行し、伊万里、尾張（瀬戸）等で作られた国産の染付鉢もよく用いられた。明治時代に入ると、「朱泥」「紫泥」など褐色の「泥物」が人気を集め、国内では常滑が泥物の鉢の主要な供給地となった。また、名工として知られるようになる作家も登場する²。現代も盆器専門の作家がおり、また、盆栽を趣味とはせずに盆器のみ収集するコレクターもいる。盆器の専門業者は減少している。
卓	盆栽を飾る飾り台で、高さや用途により「平卓」「中卓」「高卓」「小品卓」「地板」に分類される。懸崖の形状の盆栽を陳列するのに適した、脚の長いタイプもある。需要の減少とともに卓を作る指物師も減り、現在、国内には卓を作る指物師は残っていない。
鋏	盆栽の剪定に用いられる鋏には、剪定用の剪定鋏、幹や太い枝等を切り落とす又枝切りや、コブをえぐり切るコブ切り、針金用の針金切り等、目的や用途に応じて多種多様な種類がある。昭和前期に盆栽専用の鋏を作る業者が登場し、一つの市場を作っている³。
じょうろ	一般の園芸用じょうろと比べてハスロの目が細かく、水が霧状に出る盆栽専用のじょうろを用いる。材質にはプラスチック製やステンレス製、真鍮製、銅製等がある。銅製じょうろは手作りで生産され、高価であるが、殺菌力があって水が腐りにくいため好まれている。なお、現在、盆栽用の銅製じょうろを生産しているのは国内で 1 社のみである。
土	主として赤玉土といわれる関東ローム層の土が用いられる。褐色で粒状の火山灰土で、保水性、排水性、保肥性に優れる。サツキ盆栽には栃木県鹿沼市付近で産出する鹿沼土がよく用いられる。これも火山灰土で、赤玉土より酸度が高い pH4.0～5.0 程度の酸性の土である。なお、近年は、質のよい土は海外へも輸出され国内では品薄の傾向にある。

¹ 農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年）」
(URL:<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/f-kaboku-2.pdf>) 最終確認日：令和 5 年 1 月 31 日

² 京都の陶工「平安東福寺」こと水野喜三郎（1890～1970）の盆器は、作家の死後に評価が高まり、現代では大きいものだと 100 万円の価格がつくこともあるという。（依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年）

³ 日本盆栽協会編『盆栽大事典 第 3 巻』同朋舎出版、昭和 58 年

錦鯉生産・飼育のための用具について

錦鯉は技術の進歩とともに発展してきた側面があり、育種等における生産・飼育技術のほか、水質保全や越冬・飼育用ハウスなど飼育環境整備のための機器、輸送用具、飼料、薬品等の改良が行われてきた。

野池は棚田等に人工的に設けられた養鯉池であり、ここに放たれた錦鯉の稚魚は野池でミジンコを食べて育成される。また、室内のハウス池で飼育されている錦鯉を、野池に放って育てることで、色艶や体形が良くなるともいわれる。愛好者たちが飼育する錦鯉も「たたき池」（コンクリート製の池）で長く飼育すると色艶が衰えてくるので、そのときは生産者に1年程度、野池での飼育を委託することもある。このように日本の錦鯉の生産・飼育において、野池は重要な役割を担っていると考えられる。

なお、農地を養殖池として利用する場合、転用許可や転用期間制限など農地法による規制があるが、国は令和3年（2021）3月に優良農地の確保とともに地域の農業振興と農業に係る養殖事業の展開を目的として、「農地を養殖池に一時転用する場合における農地転用許可の取扱いについて」（2農振第2935号 令和3年3月4日付け農林水産省農村振興局長通知）を発出している。これは、内水面における水産動植物の養殖を目的とした農地の一時転用（養殖池に附帯する給排水施設を含む）について、農地への復元が可能な状態であること等の要件を付した上で、一時転用期間の上限が3年を超える場合であっても、10年以内であれば一時転用を許可すると通知されている。

参考資料 文化創造アナリスト及び有識者会議検討経過等

1 煎茶道

(1) 文化創造アナリスト

本調査研究事業は、煎茶道に関する豊富な識見を有する者を「文化庁文化創造アナリスト(煎茶道)」として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50 音順、敬称略、令和5年1月31日現在

漆原 拓也 法政大学 国際日本学研究所 客員所員

船阪 富美子 神戸大学 研究推進部

(2) 有識者会議(文化創造アナリスト会議)経過

令和3年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和3年12月8日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(煎茶道)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年2月14日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(煎茶道)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

令和4年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年8月10日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(煎茶道)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年11月16日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

③第3回有識者会議

●開催日・開催方法

令和5年1月26日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

(3) 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・煎茶道の歴史、主要な無形の文化的所産、国内における社会的位置付けや評価、国際的な評価や発信、用具・原材料の市場での流通量・生産量等に関する文献等の調査
- ・国民意識調査
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務
- ・報告書（案）の作成

2 香道

(1) 文化創造アナリスト

本調査研究事業は、香道に関する豊富な識見を有する者を「文化庁文化創造アナリスト(香道)」として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和5年1月31日現在

宮崎 涼子 京都芸術大学 非常勤講師

矢野 環 同志社大学 名誉教授、埼玉大学 名誉教授

(2) 有識者会議(文化創造アナリスト会議)経過

令和3年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和3年12月27日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(香道)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年2月22日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(香道)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

令和4年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年8月1日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(香道)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年11月30日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

③第3回有識者会議

●開催日・開催方法

令和5年1月25日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

(3) 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・香道の歴史、主要な無形の文化的所産、国内における社会的位置付けや評価、国際的な評価や発信、用具・原材料の市場での流通量・生産量等に関する文献等の調査
- ・国民意識調査

- ・有識者会議等の調整、運営などの業務
- ・報告書（案）の作成

3 和装

（１）文化創造アナリスト

本調査研究事業は、和装に関する豊富な識見を有する者を「文化庁文化創造アナリスト(和装)」として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和5年1月31日現在

村田 裕子 大阪大谷大学 文学部歴史文化学科 准教授

吉田 満梨 神戸大学大学院 経営学研究科 准教授

（２）有識者会議(文化創造アナリスト会議)経過

令和3年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和3年12月13日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(和装)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年2月4日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(和装)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

令和4年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年8月17日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(和装)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年11月21日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

③第3回有識者会議

●開催日・開催方法

令和5年1月27日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

(3) 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・和装の歴史、主要な無形の文化的所産、国内における社会的位置付けや評価、国際的な評価や発信、用具・原材料の市場での流通量・生産量等に関する文献等の調査
- ・国民意識調査
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務
- ・報告書（案）の作成

4 礼法

(1) 文化創造アナリスト

本調査研究事業は、礼法に関する豊富な識見を有する者を「文化庁文化創造アナリスト(礼法)」として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和5年1月31日現在

堀田 明美 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 准教授

綿拔 豊昭 筑波大学 図書館情報メディア系 教授

(2) 有識者会議(文化創造アナリスト会議)経過

令和3年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和3年12月3日 リモート会議

- 主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(礼法)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

- 開催日・開催方法

令和4年2月8日 リモート会議

- 主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(礼法)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

令和4年度

①第1回有識者会議

- 開催日・開催方法

令和4年7月29日 リモート会議

- 主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(礼法)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

- 開催日・開催方法

令和4年11月18日 リモート会議

- 主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

③第3回有識者会議

- 開催日・開催方法

令和5年1月23日 リモート会議

- 主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

(3) 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・礼法の歴史、主要な無形の文化的所産、国内における社会的位置付けや評価、国際的な評価や発信等に関する文献等の調査
- ・国民意識調査

- ・有識者会議等の調整、運営などの業務
- ・報告書（案）の作成

5 盆栽

（１）文化創造アナリスト

本調査研究事業は、盆栽に関する豊富な識見を有する者を「文化庁文化創造アナリスト(盆栽)」として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50 音順、敬称略、令和 5 年 1 月 31 日現在

川崎 仁美 盆栽研究家 「現代盆栽」主宰
依田 徹 公益財団法人遠山記念館 学芸課長

（２）有識者会議(文化創造アナリスト会議)経過

令和 3 年度

①第 1 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 3 年 12 月 6 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(盆栽)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

②第 2 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 4 年 1 月 26 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(盆栽)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

③第 3 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 4 年 3 月 2 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(盆栽)」報告書（案）の検討について

令和4年度

①第1回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年8月9日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(盆栽)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

②第2回有識者会議

●開催日・開催方法

令和4年11月29日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

③第3回有識者会議

●開催日・開催方法

令和5年1月25日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

(3) 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・盆栽の歴史、主要な無形の文化的所産、国内における社会的位置付けや評価、国際的な評価や発信、用具・原材料の市場での流通量・生産量等に関する文献等の調査
- ・国民意識調査
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務
- ・報告書（案）の作成

6 錦鯉

(1) 文化創造アナリスト

本調査研究事業は、錦鯉に関する豊富な識見を有する者を「文化庁文化創造アナリスト(錦鯉)」として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50 音順、敬称略、令和 5 年 1 月 31 日現在

菅 豊 東京大学 東洋文化研究所 汎アジア研究部門 教授

馬場 俊三 株式会社錦彩出版 代表取締役（月刊『錦鯉』発行人）

（２）有識者会議（文化創造アナリスト会議）経過

令和 3 年度

①第 1 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 3 年 12 月 2 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業（錦鯉）」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

②第 2 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 3 年 12 月 23 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業（錦鯉）」報告書（素案）の検討について
- ・今後の予定について

③第 3 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 4 年 3 月 1 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業（錦鯉）」報告書（案）の検討について

令和 4 年度

①第 1 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 4 年 8 月 5 日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業（錦鯉）」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

②第 2 回有識者会議

●開催日・開催方法

令和 4 年 11 月 24 日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

③第3回有識者会議

●開催日・開催方法

令和5年1月24日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

(3) 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・錦鯉の歴史、主要な無形の文化的所産、国内における社会的位置付けや評価、国際的な評価や発信、市場での流通量・生産量等に関する文献等の調査
- ・国民意識調査
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務
- ・報告書（案）の作成